

EU Indicators

欧州経済指標コメント：7-9月期英国GDP（速報）

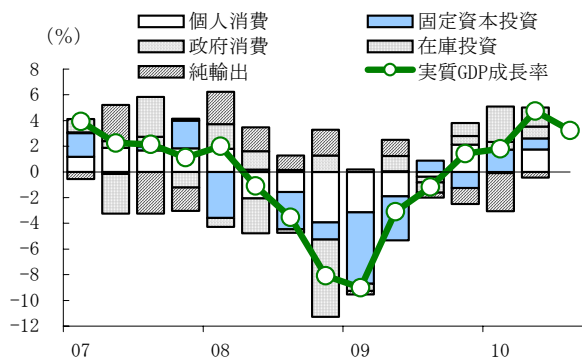
発表日：2010年10月26日（火）

～足元で見られる景気減速の初期材料は10-12月期以降のGDPに顕在化しよう～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

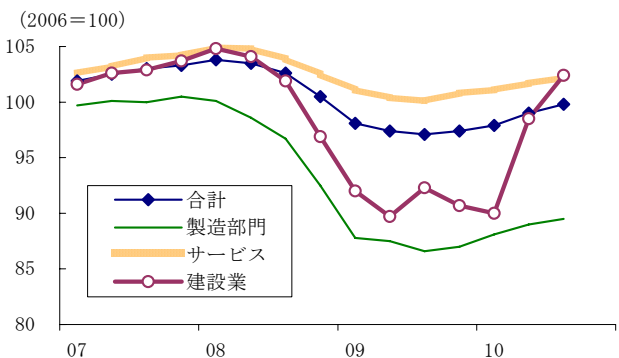
- 7-9月期の英国の実質GDP成長率(速報値)は前期比+0.8%、同年率+3.2%と4四半期連続のプラス。前期の高成長(前期比+1.2%)から減速したものの、事前予想(同+0.4%)を上振れた。
- 業種別の内訳は、農業(同▲0.3%)、鉱業(▲0.7%)、公益(▲0.2%)がマイナスとなった以外、製造業(+1.0%)、建設業(+4.0%)、卸売・宿泊・外食(+0.6%)、運輸・通信(+0.7%)、企業向けサービス・金融業(+0.5%)、政府(+0.6%)が軒並みプラスとなった。建設業の好調持続には意外感があるが、足元で見られる住宅市況軟化の影響は10-12月期以降のGDPに顕在化しよう。
- 需要項目別の内訳は11月24日の一次改定値で明らかとなるが、基礎統計や業種別の推移から判断して、個人消費、政府消費、固定資本投資がプラスの一方、在庫投資と純輸出がフラット圏の見込み。
- 堅調な景気拡大の持続は、BOEが追加の金融緩和の是非を決するまでになお時間があることを意味する。とは言い、①雇用改善に翳り、②資本財生産や輸出受注判断の悪化、③各種住宅指標での市況軟化など、回復モメンタムのピークアウトを示唆する材料は着実に増えている。来年以降は財政再建が本格化するため、景気への下押し圧力は一段と強まる。政府が財政再建を断行するなか、このまま雇用環境が悪化に転じれば、来年入り後の景気は失速の瀬戸際に立たされよう。

■英国：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：英国家統計局

■英国：業種別GDP



出所：英国家統計局

■英国GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

年次	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
09/1-3月期	▲ 10.2	▲ 9.0	(▲ 8.7)	▲ 4.9	▲ 2.5	▲ 29.6	(0.2)	(▲ 0.3)	▲ 29.4	▲ 26.6
09/4-6月期	▲ 5.6	▲ 3.1	(▲ 4.4)	▲ 2.9	0.3	▲ 20.2	(1.2)	(1.3)	▲ 6.0	▲ 9.8
09/7-9月期	3.5	▲ 1.2	(▲ 0.8)	▲ 0.6	▲ 1.9	6.0	(▲ 0.8)	(▲ 0.4)	3.7	4.9
09/10-12月期	4.9	1.4	(2.7)	3.3	2.9	▲ 7.9	(1.0)	(▲ 1.3)	15.5	19.3
10/1-3月期	9.1	1.8	(4.8)	▲ 0.1	2.7	12.0	(2.8)	(▲ 3.0)	▲ 2.8	8.1
10/4-6月期	5.5	4.7	(5.2)	2.7	4.1	5.7	(1.5)	(▲ 0.4)	9.4	9.9
10/7-9月期	—	3.2	—	—	—	—	—	—	—	—

出所：英国連邦統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。